

まず、はじめに去る10月1日、山口市ホテルニュータナカにおいてこのような賞をいただきました。誠にありがたく皆様とともに喜んでいく次第でございます。

さて、この賞は国体出場30回という事で与えられる賞でございます。私のやっている競技は飛び込み競技であります。競技のあり方、方法ですがこの国体に関しましては中国大会（ミニ国体）というものがありません。県で選考されればそれで国体出場となります。そういう意味で30回という数字は30年ではありますが決して永くはなかったと思います。もっと凄い、もっと立派な監督・コーチの人はたくさんおられると思います。

30年の中身はいろいろなことがありました。

昭和54年、大学2年で初めての国体に参加することができました。東京駅から丸1日23時間45分という夜行列車で宮崎に行きました。当時県からの費用がでないという事で先輩の知人宅「岡崎さん」にお世話になったことを覚えています。そんなことでスタートしていきました。次の年にはモスクワOlympicに日本は不参加というかっこをとりました。また栃木国体には「川田さん」宅にお世話になり食事も国体食よりすごい御馳走でした。県からの支給品は帽子、セーターのみで交通費、宿泊費も自己負担でありました。このことを県の団長さんになどに話す機会がありました。非常に驚いておられました。その栃木国体では、成年男子高飛込に出場し、10位に食い込みました。

いよいよ、大学4年。最終学年であります。滋賀国体。飛び順1番でした。全種飛び終えて更衣を済ませた後、スタンドの先輩に「おい、今のところ6位だぞ。」と言われました。昭和56年のことでした。その年は米子の飛び込みプールのこけら落としとして10Mからの飛び込み演技を小学生たちに披露することができました。その時種目解説で来ておられた大坪先生が今日の演技であれば国体で4位～5位はとれるでしょう。と言われていたので6位という成績で良かったと思います。しかも最後の試合でこういう成績が取れたので本当に満足しています。

昭和60年には「わかとり国体」。実は鳥取国体の時から監督として飛び込みに携わってきました。前年度まで監督であった堀田利雄監督が60年1月18日胃がんでこの世を去られました。その年の県外合宿は約90日間という日程でした。その合間に合宿の報告に病院を訪れましたが、面会謝絶になっており、病室の前で報告。その夜に亡くなりました。私に「2人で鳥取を飛び込み王国にしよう。」と言われていた監督が亡くなったのです。もし堀田監督がご存命ならばこの表彰もまだなかったのです。そういう意味でこの表彰は堀田監督と安永の2人がいただくものだと思います。

話は国体から離れますが

平成4年、バルセロナオリンピック代表選考会の男子高飛び込み決勝を制したのは当時

日本チャンピオン金戸恵太選手でありました。大変素晴らしい演技であったと思うが私の記憶は金戸選手を思い出すことはできません。なぜなら、偉大な勝者より観衆を感動させ、プール全体が割れんばかりの声援に包まれ、惜しめない拍手が数分間続いた光景を一生忘れることはないと思うからです。「109C」「前宙返り4回半」。今年世界水泳が上海で開かれましたが、ようやく109Cが世界ででてきたという気がします。当時、種目表示板に109の9の文字がなく急きょつくられたようでした。まさに日本の水泳界飛び込み界の1ページを開いたという感じでした。

競技得点も飛び込み競技は長年とり続けています。

平成14年、宮本兄弟が釜山アジア大会に出場し国体には出られないという事がありました。とうとう長年続いてきた競技得点もこれで終わりか。選手がいないという事態になりました。そこで安田千万樹先生に相談しました。普通であれば断るところを、大変快く現役復帰してくれました。体調管理から主食は「そうめん」「冷麦」ということでかなり真剣に取り組んでくださいました。そのおかげで、「先生、つながりましたよ。」という電話のひとつことに感謝した思い出もあります。

もう1つミラクルがありました。

2009年新潟国体であります。宮本幸太郎選手の肩の調子がおもわしくなく棄権に追い込まれた国体でした。その年から、成年男子で板飛び込み安永元樹選手出場しました。あの成年のレベルのなかでどこまでできるのか。結果4位という成績でした。彼は試合直前からスイッチをオンにしていました。コーチがどういってもできないことを、選手自らスイッチをオンにすること。このことができたのです。この年も連続入賞は続きました。

そして今年2011年山口国体（会場は広島市）

30年もの間、いろいろな思い出がありますが、思い出は思い出として。

これからの日本は大きく変換する岐路に立っていると思います。強化の在り方、強化選手のつくり方など、世界と対等に戦っていける。張り合っていける日本をつくらなければなりません。その中の1人としてこれからもやっていけたらいいなと思います。みなさん、よろしくお願いします。

(2011, 12, 4 功労賞受賞記念パーティーにて・・・)